

## クリニカルリーダー別看護実践能力指標

到達レベル	レベルⅠ 臨床1年目	レベルⅡ・レベルⅢ 臨床2年目・臨床3年目	レベルⅣ レベルⅢ修了又は同等レベルで審査で認められた者	レベルⅤ レベルⅣ修了後1年以上経過し審査で認められた者
ベナーの看護論	新人・新卒者のレベル	一人前・同じ又は類似した状況で2～3年仕事しているナース	中堅：状況を全体としてとらえられる	達人：ルールやガイドラインに頼らず、豊かな経験から状況を直感的に把握する
到達目標	1日常生活援助の基本を学び、安全・安楽な看護援助を身につける。 2アソシエートナースとしての役割を理解し実践できる 3事例のまとめを通し自己の看護観を深めることができる。 4意欲的に仕事に取り組むことができる。	1NANDA-I看護診断を用い、看護過程の展開ができる。 2研究的視点を持ち、自己の看護観の視点を深める。 3リーダー的役割が認識でき、プライマリーナースとして行動がとれる。 4主体的に看護研究に取り組むことができる。 5プライマリーナースとしてリーダーシップがとれる。 6専門的知識と技術を深めることができる。	1看護の専門性を高めリーダーとしての役割・業務ができる。 2同僚や学生に対し適切な指導や助言ができる。 3キャリアアップの必要性を理解し、自己研鑽できる。 4理論と実践を結びつけながら、看護の研究課題を見出すことができる。	1看護実践において専門的な知識を用い総合的に判断できる。 2看護師長・副看護師長を補佐し、病院・看護部の目標に向かって主体的に取り組むことができる。 3専門領域を目指すことができる。 4クリティークの視点を持ち客観的に評価し分析することができる。
項目				
看護実践能力	1看護の基礎知識・技術・態度を身につけ、支援を受けながら安全・確実にベツサイドケアができる。 2情報収集ができ、患者の問題を捉え指導・助言を受けながら解決に向け実践し、記録ができる。 3緊急時は指示を理解し、行動に移せる。	1看護過程が展開でき、計画に基づいた看護が実践できる。一連の記録ができる。 2カンファレンスに参加し、プライマリー患者の看護計画に責任が持てる。 3看護単位の専門知識・技術を確実に習得できる。 4マニュアルを理解し、緊急時の対応に取り組むことができる。	1アセスメント能力を高め、質の高い看護が提供できる。 2看護計画の評価・修正を的確にし、監査ができる。 3院内における緊急事態に迅速に対応できる。	1看護の専門領域を深め、幅広い視野で状況判断し、対応できる。 2あらゆる看護場面で問題解決能力を発揮し実践できる。 3院内における緊急事態に、リーダーシップを発揮できる。
マネジメント能力	1チームメンバーの一員としての役割と責任を果たすことができる。 2業務の優先度がわかり、1日の行動計画ができる 3日常業務において、問題意識を持ち発言できる。	1メンバーの役割を理解しメンバーシップが発揮できる。 2プライマリーナースとしてリーダーシップがとれる。 3看護単位の各係りを担当することができる。 4看護単位の環境や物品管理に気を配ることができる。	1看護部の目標を理解しセクションの目標に取り組むことができる。 2リーダーの理解と役割を果たすことができる。 3看護業務に責任を持ち業務改善について意見を述べ実践できる。	1看護師長・副看護師長を補佐し、病院・看護部の目標達成に向け活動し、評価できる。 2看護管理上の問題を発見し、対策・実践・評価ができる。
人間関係能力	1看護の実践や自己成長のために、同僚・先輩・看護師長の支援を受けることができる。 2患者・家族とよいコミュニケーションができる。 3同僚・先輩・看護師長とよいコミュニケーションができる。 4社会人としての常識を持ち、よい接遇ができる。	1患者・家族の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を築くことができる 2看護単位やチームの状況を知り協力できる。 3医師・上司に的確な報告や情報提供ができる。	1患者・家族の目標達成のために支援できる。 2医療チーム内の信頼関係を保ち、調整できる。 3職場風土の向上に向け働きかけることができる。	1患者・家族の目標達成のために支援できる。 2医療チーム内の信頼関係を保ち、調整できる。 3職場風土の向上に向け働きかけることができる。
教育・研究能力	1各セクションの研修に参加し、特徴的な知識・技術を主体的に学習できる。 2院内・院外の研修に参加し知識・技術・態度を高めることができる。 3自己の課題を明確にし、学習目標の設定ができる。 4学生指導に関心を持つことができる。	1看護研究の意義・目的を理解し、指導を受けながら研究に取り組むことができる。 2プライマリーナースとして学生指導に係る事ができる。	1看護単位の研修会の企画・運営ができる。 2研修や看護研究を通し、看護実践能力を高めることができる。 3同僚や学生に対し、個性を重視した適切な指導や調整ができる。	1看護師長・副看護師長と協力し、同僚の能力開発、職業人としての成長を支援することができる。 2看護研究を通して看護の専門性を深め看護実践ができる。 3自分のキャリア開発プログラムを考えることができる。